

# 白藍塾オリジナル

## 2016入試小論文分析&解答のヒント

2016年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

### ●慶応・環境情報学部

「身近なモノやコト（道具や方法の発明、デザイン、サービスなど）」について考えさせるというのは、昨年度もそうだったように、近年の環境情報学部では頻出のテーマと言える。

7つの資料は、どれも読みやすい。

問1は、要するに、各資料の要旨を1行でまとめるというもの。昨年度の設問1とよく似ている。難しく考える必要はない。「〇〇により、××のように変化した」ということを、各資料についてまとめればよいだけだ。「テレビの普及により、家族の団らんが失われた」などのように。ただし、資料Fと資料Gは、こういうまとめ方をするには明らかに無理のある内容。どうにも答えようがないと思うが、「シンプルでコストの低いものづくりによって、独創的な遊びが生み出された」（資料F）、「海外留学が広まることで、異文化理解の機会が広まった」（資料G）など、適当に答えておくしかないだろう。

問2は、「身近にあるモノやコト」を1つ選んで、「それが生まれた背景」と「それによる生活や人の意識の変化」を説明するという問題。要するに、資料と同じような分析をすればよいわけだが、4つの枠の使い方にとまどうかもしれない。わかりやすいのは、たとえば「選んだ対象の説明」「それが生まれた背景の説明」「それによる変化（2点）の説明」などと分けて枠ごとに書き込むこと。もちろん、イラストなどが得意な人は描くほうがよいが、無理をする必要はまったくない。後述するが、問3とセットになっているので、問3が答えやすい対象を選ぶことが大切だ。

問3は、問2で選んだモノやコトが、将来どのような発展・進化を遂げているかを考える問題。問2が現在の時点における変化を説明する問題だったのに対し、こちらは将来どう変化するかを考えることが求められている。また、これも昨年度の設問3と似た出題だが、昨年度は自分の発明を書く問題だったのに対し、今年度は既存のモノやコトについて考えることになっている。とはいえ、もちろん、単に「このように変化することでこのように便利になる」といったことを書いても仕方がないので、情報化やグローバル化、高齢化などによる社会の課題とうまく結びつけて考えることが大切だ。

また、変化の想像しにくい対象を選んでしまうと何も書けないので、やはりIT関係のモノやサービスを選ぶほうが書きやすいだろう。

書き方としては、まず第一部で、「このように変化する」ということをずばりと示す（たと

えば、「スマホの機能がこのように進化する」といったように)。次いで第二部で、「それが登場したきっかけ」を書く。設問の意図がわかりにくい、そのように変化した要因などを書くといだろう。そして、第三部で、その変化が生活や人の意識にどんな変化をもたらすかを書く。たとえば、「この新しい機能によって、高齢者や障害者にも使いやすくなり、社会のバリアフリー化につながる」など。このような書き方をすれば、説得力のある内容になるだろう。

もちろん、マイナスの影響を考えることもできるが、プラスの影響を考えるほうが、学部のねらいには適っているはずだ。

総じて、昨年度とテーマも設問の内容も似ているが、今年度のほうが出題形式がオーソドックスで書きやすい。SFC 向けにしっかりと準備をしてきた受験生であれば、それほど書きにくいことはなかっただろう。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>